

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第1回新道区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的な審議（公開）

- ・自主的な審議事項について

3 開催日時

令和7年4月22日（火）午後6時30分から午後7時57分まで

4 開催場所

新道地区公民館 多目的ホール

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員：草間委員、越水委員、佐藤委員、千町委員、塚田委員、南保委員、船崎会長、山本委員、横田委員、横山副会長、渡邊委員（欠席3名）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 井守所長、村山副所長、渡邊係長、鈴木主事

8 発言の内容（要旨）

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【船崎会長】

- ・会議の開会を宣言

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【船崎会長】

- ・会議録の確認：塚田委員に依頼

次第 2 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的な審議事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

○審議の進め方の確認

これまでの研修は「歴史」を中心としており、委員の意見も歴史に特化したものが多く挙がった。この先は何かテーマを設定した方がより広い考えで意見を出しやすいと考え、前回から分野を絞り、新道区の「強み（良いところ）」、「弱み（苦手としているところ）」について意見を出し合いながら、「謎（わからないところ）」については今後の研修でそれを補うことにし、「強み・弱み」の整理をしながら、地域協議会の役割の一つである自主的な審議、課題解決策などを協議していくこととした。

○協議方法の説明

前回に引き続き新道区の「強み（良いところ）」、「弱み（苦手としているところ）」について、分野別に意見を出す。前は「健康・福祉」、「子育て・教育」、「安全・安心」について意見をいただいた。今回は「環境」、「都市基盤（ハードインフラ）」、「情報・制度（ソフトインフラ）」、「コミュニティ」について意見を出し合っていたきたい。

【船崎会長】

ただ今の説明について、質問を求める。

(発言無し)

それでは、説明と発表までの進行を事務局へ依頼する。

○環境について

【渡邊係長】

「環境」に関し、「強み」もしくは「弱み」をカードに記入し、発表していただく。

【千町委員】

新道区は北部、中部、南部とあり、南部には 40 年前は何も無かったが、今では商業施設や中央病院ができ、一等地となった。

【塚田委員】

北部の環境は十分充実していると思う。

【南保委員】

強みは、海や山には 15 分から 30 分ぐらいで行けて、とても素晴らしい環境であるこ

と。弱みは、何と言っても大雨による内水氾濫。特に南田屋新田や北田屋新田などの地域に起こる。

【山本委員】

山と海が近く自然が豊かで、南葉山も見えて景色がよいのが強み。弱みは公園が少なく、あっても小規模で、子供たちの元気に遊ぶ姿がなかなか見ることができないこと。

【横田委員】

弱みは、道沿いはバイク等の騒音がけたたましくうるさいこと。難しい問題で多岐にわたると思うが、問題提起として挙げた。

【渡邊委員】

強みは、災害対策が進んでいて、河川や避難所が整備されている傾向にあること。弱みは、地方特有の課題として、鉄道やバスの本数が少なく、高齢者や車を持たない人にとって不便であること。

【船崎会長】

弱みは、都市基盤にも関わるが、降雪時の道路事情が悪く、とても危ない。環境にも関わると思う。

2つ目の弱みは、自然豊かなのはいいが小動物が多い。他の地区はわからないが、鴨島は空き家が多く、手入れされていないところもあり、タヌキやハクビシンなどの鳴き声もする。対策が必要。

【横山副会長】

強みは医療機関、商業施設が身近にあること。高齢者にとってはとても住みやすい。弱みは様々な事情もあるとは思いますが、富岡線の車道、歩道が狭いこと。

【草間委員】

郊外なので、田んぼなどの自然があり四季もはっきりしている。インフラの方にも入るが、アクセスがとてもよく、将来、上沼道もできる予定。環境的には商業施設、福祉施設、学校等もあるので、とてもよいと思う。

【越水委員】

環境の整備と美化について、毎年6月初めに国交省から花の苗を約2400株いただき、稲田の4町内会で稲田橋下の花壇と、稲田小学校グラウンドの堤防斜面に植える活動をしている。

【佐藤委員】

蚊が多いことを課題として挙げる。とよばは公共下水道が未整備で、確か、合併処理浄化槽が設置されていれば下水道に接続しなくてよいということだったが、今は下水道が入ってきている。三和区は農業集落排水で 100 パーセント下水道になっているので、蚊がいない。とよばに来ると蚊に刺される。古い住宅地は下水道にしない。家が古くなり、高齢化で整備するのも大変なので、戸野目では下水道を通さず、合併槽のみ許可するという形になってきている。流雪溝があるところは水がたまらないので蚊は発生しないが、内陸部の新しい団地の生活雑排水しか出ていないところは水たまりができ、蚊が発生する。鴨島や稲田もそうだろうが、とよばでさえ勾配がなく、匂いも出てしまう。

また、関川堤防の遊歩道が整備されていて私もよく歩くが、とてもいい場所だと思う。ただ、先ほどハード面でも話が出たが、通学路の未整備。グリーンベルトがあっても電柱が点在していて、除雪に支障があり、子供たちの歩行が危険。県は、もうこれ以上整備できないと言うが、どうすればいいのかということも課題。

○都市基盤（ハードインフラ）について

【渡邊係長】

次に「都市基盤」について、同様に実施する。

【横田委員】

富岡十字路から直江津寄りの藤野までは拡幅して立派な道路になったが、そこから稲田の方に向けて 30 年以上前から拡幅の計画はあるが、遅々として進んでいない。そのことが意見で出ている歩道や通学路の危険性の問題につながるので、何とかしてほしい。あとは、昔、市道に格上げしたような細い道が舗装されていなくて、除雪もままならない。ほとんど個人任せという状況。富岡も市に要望を出しているが、同じ税金を払っているのに、除雪するところとしないところがあるという話もよく聞くので、改善していく必要がある。

【渡邊委員】

豪雪や地震などの自然災害リスクがある地域で、インフラの強靱化が必要。県と市は除雪に尽力しているが、たてまち通りの稲田の高齢者宅では、除雪もままならず福祉車両が停まるのも難しい。早く除雪できないものかと思う。

【船崎会長】

大日の県道について、拡幅の計画はあるが、それが実現するにはあと 10 年くらいかかると推測される。問題は、寺から鴨島までの道がどうにもならない状況で、何とかしな

ければいけないが、住民は手も足も出せない。

公共施設については、学校や大きな病院、警察署もあるが、コミュニティ施設が公民館しかない。ここに新道区の住民全員が集まって活動できない。今まで3か所ぐらいあったが、それが全部廃止され、ここしか残っていないので、どうにかしないといけない。住みやすい環境だが、地域でコミュニティ活動をする場所がない。

【横山副会長】

弱みとして、放課後児童クラブに対応できる施設が不足している。今、小学校の児童数は激減しているが、反比例して放課後児童クラブの利用者数が激増している。一昨年のデータでは1700人程度だったが、今は2000人を超えている。今の世相を色濃く反映していることを実感している。これが今、近々の課題なのではないか。

【草間委員】

新しい幹線道路に関してはよいが、旧道があまりにも狭いのと、かなり傷んでいる。結局それで除雪に入れず、整備の話もなかなか前に進まないようだ。多分、旧道沿いに目的地はなく通るだけなので、このまま整備されないと国道18号を通ることになる。高齢化も進むので、地域が衰退していくのではないかと心配。

【越水委員】

市内を巡回する路線バスの本数が少ない。これから高齢化社会になってきて、免許証を返納する方が増えてくる。その時の交通手段を考えなければならない。妙高市は路線バスのほかに、マイクロバスで巡回をしているところがある。特に山間部は大型バスが通れないので、マイクロバスを時々見かける。

県外育ちの私がこちらに来て驚いたのは、一家に一台の車ではなく、一人一台、車を所有していること。家族が多いと車の維持費などもかかるし、環境への配慮や車を減らす意味でも、路線バスの本数を増やして、誰でも常に乗れるような体制にしていればと思う。

【佐藤委員】

- ・ 寺の交差点の渋滞、朝夕は鶴町のインターから高規格道路に乗って行くと、国道18号上新バイパスの手前から合流地点、寺の交差点、上越大橋までの間は渋滞している。現在、橋の拡幅工事で4車線化をしているが、これは早期に何とかしていただきたい。
- ・ 板倉直江津線の電柱の地下埋設化が必要ではないか。電柱がなくなればかなり違う。
- ・ 除雪について、今は路肩寄せだが、ロータリーを頻繁に稼働できるならば、何か対策

できるのではないか。雪の量にもよるが、市道と県道では出動のスケジュールが違うので、出勤時間帯と重なると、そこから脱出できないような状況になるので、時間帯も含めて業者と詰めていただければありがたい。

- ・三和区で訪問医療をしているクリニックがある。病院だからと自分から行くのではなく逆に来てもらう。買い物も来てもらう。インターネットで買ったものを届けてもらうのもそうだが、人が行かなければならない場所である病院やスーパーから、逆に来てもらえば移動手段を考えなくて済むという、逆の発想もできる。
- ・子安保育園が大変古くて狭いので、何とかすべき。

【千町委員】

強みは交通アクセス、高速道路、インターチェンジ、上新バイパスがあること。弱みは鴨島2丁目、3丁目も含めて、狭い道路の除雪が大変であること。

【塚田委員】

富岡は土日になると、とても渋滞し困っている。通学路が狭く、特に冬は危ない。

【南保委員】

強みは、高速道路、インターチェンジ、国道があること。あとはリージョンプラザ上越、上越科学館などの公共インフラが整っていること。

内水氾濫はあるが、上島排水機場、藤野排水機場が新道北部にあるので、もし機会があれば見ていただきたい。

【山本委員】

交通アクセスの良さに付け加えて、高速バスのバス停が富岡と寺にあるので、新潟市などに行くにはとても便利。上越妙高駅にも行きやすく、新幹線を利用するにも便利。

○情報・制度（ソフトインフラ）について

【渡邊係長】

次に「情報・制度」について、同様に実施する。

【横田委員】

情報ということで、柏崎原発の再稼働時に新道区が受ける影響について、知る機会を設けてはどうか。

【山本委員】

稲田地区から時々、屋外放送が流れてくること。

【南保委員】

強みとしては、基幹病院が2つあることと、第四北越銀行、上越信用金庫、JAえちご上越の窓口等々があること。他の地域にはなく、ソフトインフラがあると思う。あとは上越森林管理署が藤野にあるので、そういうのを皆さんに知ってもらいたい。

【塚田委員】

特にない。

【千町委員】

防災行政無線の屋外スピーカーの放送について、何を言っているのか聞き取れない。

【佐藤委員】

災害発生時の情報の出し方や、避難方法の周知がまだ不十分である。町内会長協議会の場で、市から防災マップについての説明があるとのことだが、津波に関係するところとしないところを区別していただきたい。市外から来られた方が突然地震にあった時の行動について、何か周知の方法はないのかと考える。

それから、学校などの指定避難場所の備品が不十分で、例えばダンボールベッドや仕切りは、ほぼ整備されていない。

【越水委員】

特にない。

【草間委員】

- ・新道区に明確な観光資源がない。
- ・防災行政無線の屋外スピーカーの放送について、肝心なところが全く聞こえないので対応してほしい。

【横山副会長】

弱みとして、北部地区は特に感じているが、アパートが増えたことによる流入人口の増加。これは新道区全体に言えると思うが高齢化。これらにより、地域の人と人とのつながりがとても薄くなってきている気がする。

【船崎会長】

有線放送がなくなったことで生活情報が入らなくなった。特に火事の情報が入ってこなくなった。あとは災害、特に地震。今はスマホに地震や災害情報は入ってくるが、新道区は高齢者が多いので、使っていなかったりする。訪問介護やスーパーなどの配達サービスも全部ネットでできるが、実際には活用できない人もいるので、これから新道区はそういう人への対策も考えなくてはいけない。

【渡邊委員】

地域に詳しい年配者の存在が、地域の知恵や安全確保に役立っている。若年層の都市への流出により、イベントや行事の際の担い手が不足する。

○コミュニティについて

【渡邊係長】

次に新道区の「コミュニティ」について、同様に実施する。

【南保委員】

特にない。

【塚田委員】

私は新道みつわ会の送迎をしている。かも子会館と稲田公民館と芙蓉荘の3か所でやっているが、今度、芙蓉荘が廃止になるので、北部の方は富岡の町内会館を使わせてもらう形になるらしい。北部の方にもコミュニティの場が必要ではないか。

【千町委員】

町内の高齢者のみの世帯では、1年間の班長を順番どおり引き受けていただくのがままならない。

【佐藤委員】

地域コミュニティの維持や活性化については、町内会や各組織で課題となっている。組織の弱体化ということで、高齢者がいるのに老人会に入らない。例えば、とよばでは、約半分の人が老人会に入っていない。青年会は、とよばは今、65歳までとなっているが、老人会は60歳から入れる。重複している理由を聞いても組織がバラバラで、よく分からない。年代で括るとすごく閉鎖的になってしまうので、そこを少し緩やかにして、30代以上の人はこういう形でしまししょう、40歳以下の人はこういう形でやってみましようという、緩いつながりを求めながら地域コミュニティのあり方を形成していくことが考えられる。また、町内会だけではなく、隣の町内会と何か一緒に取り組むことを一回考えてもらい、それが上手くいけば、今度は学校区単位ぐらいでの活動も考えられる。新道区全体の活性化のために大きな組織ができているが、それをつなげていく方法が大きすぎて、上手く周知がされていないと感じている。もう少し小さい活動の輪から始めてもらい、ボトムアップで少しずつ大きくしてから、みつわ会という大きな組織の中に形づくり、連携ができれば、もっと活動が上手いくのではないか。小さい町内会と大きい町内会ではお金の出し入れや考え方も異なるので、組織の大きさに見合った形で考えた

らいいと思う。

【越水委員】

稲田地区は祇園祭で神輿渡御を行う。その前に5月25日諏訪神社の春の例大祭で、神輿巡行を子供みこしも含めて行う。あとは3、4年ぐらい前に発足した稲田むすぶプロジェクトが、毎年9月か10月に稲田小学校西側の河川敷から約15分、連続で花火を打ち上げている。ただ、神輿巡行をしたくても、高齢化のために神輿を担ぐ人がいない。隣の町内会長と調整して、担ぎ手を探さなければいけない。場合によっては、車に乗って回るしかないという状況。

【草間委員】

高齢者が集まる場所が少ない。以前は隣にお茶飲みに行くような方もたくさんいたが、コロナ禍のせいなのか、その頃から交流が少なくなっている気がする。外出するのが嫌になっているような状態も見受けられるので、なんとか動きが生まれるような形になればと思う。

【横山副会長】

高齢化と若い人の流出。特に高校卒業後に市外県外に出ていく人が増えているので、人と人の関わる場がどんどん減少してきている。前期の地域協議会で協議し、スタートした新道地区活性化委員会が、これからそういう問題を克服していくための、いい出発点になるのではないかと感じている。

【渡邊係長】

ここ数年、稲田むすぶプロジェクトや、新道地区活性化委員会など、地域のコミュニティを作ろうという団体が、新たに出てきて活動されている。

【船崎会長】

コミュニティとは、昔でいう隣組。昭和の大戦中、空襲を受けた時に、皆で助け合いながら生活するというのが隣組。高度経済成長期に人々が田舎から東京へ行くようになり、コミュニティという言葉が出てきた。コミュニティとは、人とのつながり。

新道地区活性化委員会では、去年からプランターに花を植え、病院に飾っているが、地域の皆さんと一緒に活動したいと思い、回覧を回しても、参加するのは新道区全体で約20人。コミュニティとなると、とても課題が大きい。これからどうなっていくか、我々地域協議会も一生懸命やっているが、なかなか人が集まらない。これは町内会も同じこと。町内会で行事をやってもなかなか人が集まらない。鴨島一丁目町内会は1000人ぐら

いいが、実際に行事をやっても 100 人から 150 人ぐらいしか集まらない。コミュニティには、いろいろな要素があり、とても難しい問題だが、活性化委員会では、新道区全体がまとまって活動できる方策を考えているので、皆さんの協力をお願いしたい。

【渡邊委員】

伝統行事や地域の集まりを通じて、住民同士の絆が強いと思う。農業・地域活動の継承、長年続く農業・地域活動があり、一定の自治意識と協力体制がある。

【横田委員】

担い手の高齢化、参加者の減少。若い人と我々世代との価値観の多様化は避けて通れない。富岡には新しい住宅も結構増えてきている。若い人や子供もいるが、そこを結ぶところがどうなっているのか。世代が 2 層 3 層に分かれているところが大きな問題。

先ほどの新道地区活性化委員会など、いろいろな団体や委員会を作るのはいいが、新道区には新道地区町内会長協議会があり、会を増やすとかえって分散してしまい、上手くいかないのではないかと。新道区だけではないが、今後の町内会の運営、担い手確保の問題について、皆さんと解決策を見出していければと思う。

【山本委員】

寺の富岡線沿いの旧道に長く住んでいる人と新しい団地の人とで、同じ町内でもコミュニティが分かれてしまっている。新しい団地の方は多分、家族で若い方が住んでいることぐらいしか分からない状態。旧道の方は昔から住む高齢者も多い。町内でも交流がなかなかない。一斉に集まる場所や機会が少ないせいもあるのかと思うのが弱み。

強みになるのか分からないが、小学校で今、児童たちが挨拶運動などの活動をしていて、地域の人と関わろうと頑張っている。

【渡邊係長】

全体を通して、意見、質問、発表内容の補足などはあるか。

(発言無し)

【渡邊係長】

これまでの各分野で出た意見を会長・副会長、事務局でまとめ、今後の協議の方向性や委員研修の内容について、次回で示したい。

発表が終了したので、ここからの進行は会長にお願いする。

【船崎会長】

以上で、次第 2 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次第2 議題「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

【南保委員】

先日、新聞に上越市の方針案として、地域協議会の公募公選制廃止へという記事が出たが、それについて説明等の予定はあるか。

【井守所長】

その記事は、3月中旬の市議会総務常任委員会で所管事務調査資料として示した案に関する内容である。昨年、委員の皆さんへのアンケート結果などを基に案としてまとめたものである。まだ案であり、決定事項ではない。今後、改めて地域政策課が地域協議会委員の皆さんに直接、説明をして意見交換する場を設ける予定である。

【南保委員】

これから変わるに当たっての草案であり、これから協議し進めていくという理解でよいか。

【井守所長】

そのとおり。見直す形で動いている。

【渡邊係長】

この資料は前回協議会の際に紙ベースの資料を希望される委員へ配布済みである。

【船崎会長】

他に何かあるか。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で、次第2 議題「(2) その他」を終了する。

次に、次第3 その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【村山副所長】

- ・ 次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・ 次回の地域協議会：5月27日（火）午後6時30分から
新道地区公民館 多目的ホール（予定）

【船崎会長】

以上で次第3 その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第3 その他「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

【千町委員】

夏期の協議会の開始時間の変更について提案する。

【渡邊係長】

開催案内送付時にアンケートを同封し、各委員の都合を確認することを提案する。

【船崎会長】

事務局の提案で進めてよいか。

(よしの声)

【船崎会長】

委員の意見を確認後、協議する。

他に何かあるか。

(無しの声)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。